

2. 差異の理由

当社グループの当第2四半期連結累計期間は、特にクラウドセグメントのローコード開発プラットフォーム「スパイラル」において、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症対策に関連する急を要するシステム案件の受注が順調に継続したこと、円安による保有外貨の為替差益が生じたこと、及び、投資事業組合による運用益が生じたことなど前回の発表時の想定を上回ったことによるものです。

なお、ワクチン接種が進み、感染者数の減少等、新型コロナウイルス感染症の危機が収束しつつある状況で、新型コロナウイルス感染症対策のために提供してきた同種案件は一過性の性質のものであることを踏まえると、当第3及び第4四半期連結会計期間については、当第2四半期連結累計期間を超える業績貢献を期待することは難しいと判断していること、また、為替差損益及び投資運用損益を現状から予測するのは難しいため、今の段階では令和3年6月30日に公表した令和4年2月期通期連結業績予想に変更はありません。

以上